

新緑の都留アルプス

西 正子

●2022 年 5 月 15 日(日) 曇り

●メンバー 斉藤(整) 嶋田 白井 西 A 西 M

●コースタイム

都留市駅(9:40)→水道橋ピーヤ(11:50)→尾崎山分岐地(13:20)→東桂駅(15:55)

「日連アルプス」につづくアルプスシリーズ第二弾は「都留アルプス」。地元山岳会が整備した里山を、風薫る季節に歩いてみた。

「都留アルプス」は都留市に沿って標高 600m 前後の山が連なる、全長 8 キロの縦走路である。標識が完備し、街に下る枝道も多いからだろう。地元の人が散歩に来たり、気軽なトレラン姿も、ちらほら見受けられた。地元地図には長短 3 つのコースが設定されているが、私たちは全道を歩き抜く「がつつりコース」を選んだ。

都留市の駅から、発電所を経て送水管沿いにジグザグ道を登る。上部貯水槽からさらに高度を上げると、1 時間ほどで蟻山(658m)の展望台に着いた。ここの他にも烽火台跡など何ヶ所かの展望地があるが、今日はグレー面曇りの空。三ツ峠はセーフだったが、富士山はとうとう姿を見せてくれなかった。

それでも新緑の山はみずみずしい。萌黄色や深い緑にまじって芽吹き茶色の茶色。ツツジの花々。美しい色合いが山肌を覆う中、ウグイスの声が初々しい。素晴らしい春山登山だ。

2 時間ほどで「ピーヤ」と呼ばれる橋脚に着く。橋の上には水路が通り、下で手を叩くと「鳴き龍」が聞けるという。さっそく試してみると「うお〜ん」と共鳴音が広がり、一同思わず顔を見合わせってしまった。

そして、この水道橋は 100 年以上前につくられたにもかかわらず、今も現役と知ってさらにビックリ！ 先には橋と道が交差する場所が数ヶ所あり、そのたびに、ゴーッと管を通る水音が聞け

た。

尾根通しの道は予想よりずっとアップダウンが多い。それでも桜の植栽事業地や学校林の東屋などを過ぎると、縦走路の最高峰、思わず笑ってしまう「都留アルプス山・713m」の山頂に着いた。

その先、尾崎山分岐では白井さんが入念に地形を調べていた。以前歩いた御正体山から尾崎山への藪ルートを思い出しているのだろう。

コースを 3 分の 2 くらい過ぎた辺りから、地形が一変、複雑になる。トリッキーな道で赤テープが頼りとなった。帰宅後に「2013 山と高原地図」を見ると、道が不明瞭になった地点から、地図上でも道がブツリ無くなっていた。もしかしたら後半 3 分の 1 は「がつつりコース用」にと、にわかになら道をつくったのかも・・・と想像した。

窪地や切通し地形を慎重に進むが、最終ポイントの住吉神社に着けばもう大丈夫。5 月の柔らかな風を浴びながら畑道を行くと、東桂の駅は、すぐそこだった。

水道橋ピーヤの下へ行く

